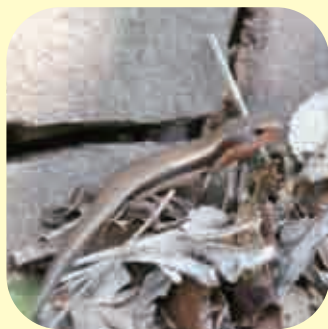
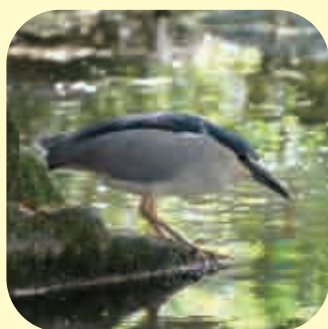


北区の生きもの

～私たちの住む北区で見られる、さまざまな生き物～



東京都北区



City of Kita

『北区の生きもの』について

私たちの住む北区は、日本で最も都市化の進んでいる東京都の中にあります。全体に市街地や住宅地が広がっていて、野生の生きものがすんでいるような場所は、あまり多くないように感じられます。

北区ではこれまで、区の中にどのような生きものがすんでいるか、区民のみなさんと一緒に、調査を行ってきました。その結果、全国的に数を減らしているような貴重な種類を含め、数多くの生きものがすんでいることがわかりました。これは区内には、荒川や崖地の林のような自然環境がまだ残されていることや、公園などで自然環境を再生したりしていることによるものと考えられます。

みなさんが日ごろ生活している家や学校のまわりでも、ちょっと気をつければ、多くの生きものを見ることができます。身近な生きものに目を向けることによって環境の変化などに気が付くこともあります。

この本は、みなさんの身のまわりの生きものを紹介したガイドブックです。この本がきっかけとなり、多くのみなさんが野外で生きものに接し、関心を深めてくれることを願っています。

目次

『北区の生きもの』について	2
北区の地形と気候	3
生きものの調査について	3
身近な場所で見られる生きもの	4
北区の主要な環境と生きもの	6
日本の中の北区・世界の中の北区	8
生物多様性 1	10
生物多様性 2	12
北区の歴史と生きもの	14
生きものとのふれあい 1	16
生きものとのふれあい 2	18
学校の生きものを探してみよう	20
ノート	22

■ 写真について

この本で使われている写真はすべて、北区の中で撮影したものです。
この本に載っている生きものを見つけたら、名前後の空欄に○印をつけてみましょう。

北区の地形と気候

地域にすむ生きものは、それぞれの地域の位置や地形、気候などの自然条件の影響を受けます。私たちの住む北区の自然条件を見てみましょう。

北区はその名の通り東京 23 区の北部に位置し東西に狭く（約 2.9 km）、南北に長い（約 9.3 km）細長い形をしています。北側には荒川という大きな川がありその対岸は埼玉県です。北区の地形は西側の台地と東側の低地に分かれています。台地と低地の境にほぼ沿って、南北に J R 京浜東北線が走っていますが、この境に崖地が見られるのが地形の特徴です。



北区に最も近い地域気象観測所（アメダス）がある練馬の気象データ（平年値）によると、年間平均気温は 15.5℃で、最も寒いのは1月の 4.6℃、最も暑いのは8月の 27.2℃でした。年間平均降水量は 1,549.1 mmで、最も降水量の少ないのは12月の 49.9 mm、最も多いのは9月の 222.1 mmでした。冬の低温・少雨と夏の高温・多雨という、太平洋岸式気候の特徴をあらわしています。

生きものの調査について

北区ではこれまで、さまざまな生きものの調査を行ってきました。最近では 2005 年から 3 年かけて、植物、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、クモ類、底生動物の調査を行いました。魚類についても河川生物生息調査として、1984 年から区内の川での調査を毎年続けて行っています。また清水坂公園にある自然ふれあい情報館では、公園内で見られる生きものの調査を続けて行っています。

調査の結果から、北区で見られた生きものの目録（リスト）を作りました。これまでに見られた生きものの種類数は、以下の通りです。

分類群	種類数	分類群	種類数	分類群	種類数
植物	1,175	爬虫類	12	クモ類	129
哺乳類	11	両生類	6	底生動物	50
鳥類	139	昆虫類	775	魚類	53

身近な場所で見られる生きもの

私たちの身のまわりは、コンクリートとアスファルトで覆われた場所ばかりのようですが、多くのみどりがあります。そんな場所をよく探すと、さまざまな生きものを見つけることが



ビルの立ち並ぶ市街地



駅前のみどり

植物

花壇に植えられている花に比べると目立ちませんが、コンクリートのすき間に生えた小さな野草が、かわいらしい花を咲かせています。



キュウリグサ



ハハコグサ



ヤハズエンドウ



ホトケノザ



コヒルガオ



ネジバナ

鳥類

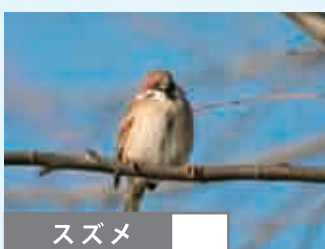
空をすばやく飛びまわる鳥も、校庭の隅を歩いていたたり、街路樹の枝先に止まって鳴いていたたりして、じっくりと姿を見られることもあります。



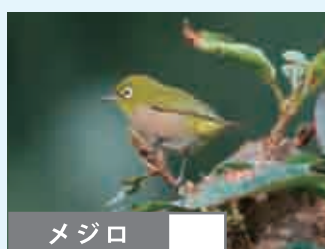
シジュウカラ



ツバメ



スズメ



メジロ



ムクドリ



ハシブトガラス

よく見ると街路樹が植えられていたり、公園や庭に植え込みがあったりして、
できます。



じゅうたくち
住宅地のみどり



公園のみどり

こんちゅう 昆虫類など

花の蜜を吸ったり、葉を食べたりして、
植物のあるところには必ず昆虫の姿があり
ます。そんな昆虫を狙って、クモやカエル
も姿を現します。



ツツレサセコオロギ



ミンミンゼミ



アオスジアゲハ



ヤマトシジミ



ホシホウジャク



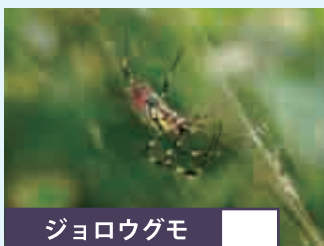
セグロアシナガバチ



マメコガネ



ニホンカナヘビ



ジョロウグモ



アズマヒキガエル

北区・自然はかせクイズ ①

生きものを観察する
ときにはルーペ（虫
めがね）や双眼鏡が
あると便利です。使
うときには、どのよう
な注意が必要でしょうか？
答.




北区の主要な環境と生きもの


がけち 崖地の林


北区の地形の特徴である南北に走る崖地には、飛鳥山公園などの公園を中心に林が残っています。さまざまな樹木が生育する崖地の林は、多くの生きものすみかとなっています。





崖地の林で見られる生きもの


 **ミズキ**


 **コナラ**


 **カナブン**


 **サトキマダラヒカゲ**


 **コゲラ**


 **タチツボスミレ**


 **コムスジ**

 **アカハラ**

 **アカスジキンカメムシ**

 **ムラサキケマン**

 **シャガ**

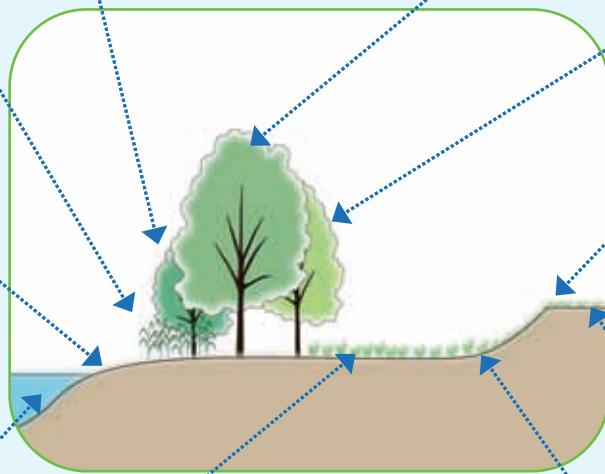
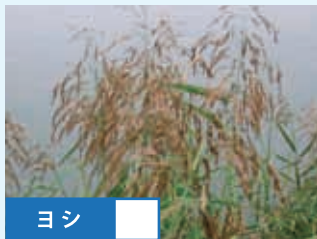
 **アオジ**

あらかわ 荒川

北区の北側^{がわ}を流れる荒川には、水辺^{みずべ}に暮らすさまざまな生物が見られます。広い河川敷^{かせんしき}に残るヨシ原やヤナギの木立ち、また土手の草地にも、多くの小さな生きものがすんでいます。



荒川で見られる生きもの



北区・自然はかせクイズ ②

荒川は、東京湾^{わん}で海に注いでいます。それでは源流^{げんりゅう}（流れの始まり）はどこでしょうか？

答.

日本の中の北区・世界の中の北区

北区でふつうに見られる生きものでも、荒川の流^{あら かわ}れに乗^のったり、自分の力で空^とを飛^とんだのどこに、そのような力があるのでしょうか。日本や世界のあちらこちらと行き来する生^いり、また移動^{い どう}の途^と中^{ちゆう}でエサを採^とったりする大切な場所なのです。

平地と山地を移動する生きもの

アキアカネは最もふつうに見られるアカトンボの仲^{なかま}間^ごです。6月頃^{ごろ}に平地の水田などで羽^う化^かして成^{せい}虫^{ちゆう}にな^なったアキアカネは、夏^{なつ}になると涼^{すず}しい高^{たか}い山^{やま}へ移^{うつ}動^{どう}して過^{すご}します。そ^そして秋^{あき}になると山^{やま}を下^{くだ}り、北^{きた}区^く付^つ近^{きん}では9月の中頃^{ちゆう}にな^なると、姿^{すがた}をよく見^みられるようにな^なります。



世界とつながる渡り鳥

よく知られているように、ツバメは日本よりもずっと南のフィリピンやインドネシアで冬を越し春になると日本に渡^{わた}ってきて子育^{なつどり}てをします。このような鳥^{とり}を夏鳥^{なつどり}といいます。初夏^{しよか}に荒川のヨシ原^{よしはら}で、大^お声^{こゑ}で鳴^ないているオオヨシキリも夏鳥^{なつどり}です。

逆^{さか}に日本より北^{きた}の国^{くに}々^々で夏^{なつ}に子育^こてを^をして、寒^{ふゆ}い冬^{ふゆ}を日本^にで過^{すご}す鳥^{とり}もいます。カモの仲^{なかま}間の多^{おほ}くや石^{いし}神^{かみ}井^い川^{がわ}でよく見^みられるユリカモメなどがその代^{たひ}表^{ひょう}で、冬^{ふゆ}鳥^{どり}とよばれます。



りして、日本各地、また海を越えて外国と行き来している種類がいます。小さな生きもの
きものにとって、私たちの住む北区は、卵を産んで子どもを育てたり、寒い冬を過ごした

北上する生きもの

暖かい地方にすむ昆虫の中には、1年に何回も卵を産んでは成長して成虫（親）になる
ことを繰り返しながら、北へ向かって行く種類がいます。北区では、ウスバキトンボ、ウ
ラナミシジミ、イチモンジセセリなどが見られます。

ウラナミシジミは房総半島より南の暖かい地方で、幼虫やサナギの姿で冬を越します。
春に成虫になると、飛んで北へ向かいます。北区では荒川河川敷などで、秋によく見られ
ます。やがて、東北地方でも見られるようになりますが、寒さに弱いため、冬を越すこと
ができません。それでもまた翌年になると、南の暖かい地方から東北の地へ向かって行き
ます。



ウスバキトンボ



ウラナミシジミ



イチモンジセセリ

荒川を移動する生き物

川の中にすむ魚類の中にはアユやウナギのように、一生のうち
に川と海を行き来する種類がいます。荒川で見られるテナガエビ
やモクスガニも、幼生（子ども）のうちは海でくらしています。

ナゴヤサナエはまだ生態のよくわかって
いないトンボです。北区付近の荒川で、幼
虫から羽化する様子は見られますが、成虫
の姿はほとんど見られません。成虫は荒川
のやや上流で卵を産み、そこでふ化した幼
虫が川を下ってくるようです。



テナガエビ



モクスガニ



ナゴヤサナエ(羽化)

北区・自然はかせクイズ ③

荒川でも見つかるウナギは、川と海を行き来する魚です。ウナギはいったいどこで、
卵を産んでいるのでしょうか？ 答。

せいぶつたようせい 生物多様性 1

生物多様性とは？

生物多様性という言葉を知ったことがありますか。生物多様性とは、林や川、草原などのさいいます。今、地球上の各地で、この生物多様性が、おびやかされているのです。

絶滅の危機にある生きものとレッドリスト

かつては身近な場所でふつうに見られたのに、現在では数が少なくなって絶滅の危機にあるような生きものが数多くいます。このような種類を取りまとめた表を『レッドリスト』といいます。東京都では2010年に、本土部（23区と多摩地区）におけるレッドリストの改定版を発行しています。

「東京都レッドリスト」の内容と主な掲載種

区分	内容	東京23区での例
ぜつめつ 絶滅	かこ せいそく 過去に生息していたが すでにぜつめつ 絶滅した。	キツネ、ニホンリス、 マガネ、タガメ など284種
やせいぜつめつ 野生絶滅	しいく さいはい 飼育や栽培はされているが やせい ぜつめつ 野生では絶滅した。	ミズワラビ、 ムジナモなど8種
ぜつめつきぐ るい 絶滅危惧ⅠA類	<p>高い</p> <p>絶滅の危険度</p> <p>今は高くないが これから高くなるかもしれない</p>	オオタカ、フクロウ、 シマヘビ、オオクワガタ など116種
ぜつめつきぐ るい 絶滅危惧ⅠB類		ハヤブサ、アオゲラ、 ニホンアマガエル など96種
ぜつめつきぐ るい 絶滅危惧Ⅱ類		モズ、ニホンヤモリ、 ウナギ、エビネ など150種
じゅんぜつめつきぐ 準絶滅危惧		イタチ、トビ、 オニヤンマ、ヒグラシ、 など109種

北区・自然はかせクイズ ④

レッドリストに載っている絶滅の危機のある生きものについて、解説を加えて取りまとめた本を何というのでしょうか？ 答.

ぜつめつ きき ～絶滅の危機にある生きもの～

まざまな環境の中で、多くの種類の生きものが複雑に関係をもちながら生活していることを

数が少なくなってしまった理由は種類によっていろいろです。稲作を止めて水田がなくなってしまう場合が多いようです。開発によって森の木が切られたりして、すむのに適した場所がなくなってしまう場合が多いようです。外から持ち込まれた動物に食べられたり、病気の流行で数を減らしたりする場合があります。

北区ではまだふつうに見られる種類が、『レッドリスト』に載っていることもあります。今はふつうに見られる種類も、これから数を減らしていくかもしれません、身近な環境と、生きものの変化に気をつけていきたいものです。

かつては身近な場所で、ふつうに見られた種類も数を減らしています。



アオダイショウ
(準絶滅危惧)



ニホンヤモリ
(絶滅危惧Ⅱ類)

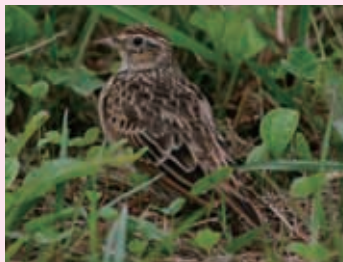


コサギ
(絶滅危惧Ⅱ類)

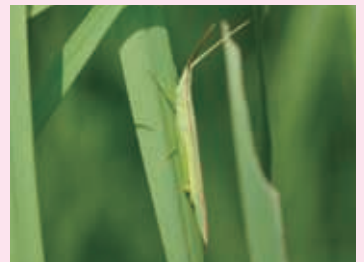
リストに載っている種類には、水辺や草原にすむ生きものが多いようです。



トウキョウダルマガエル
(絶滅危惧ⅠA類)



ヒバリ
(絶滅危惧Ⅱ類)



ショウリョウバッタモドキ
(絶滅危惧Ⅱ類)

レッドリストに載っているこんな種類も、北区で見つかっています。



カワセミ
(絶滅危惧Ⅱ類)



ニリンソウ
(準絶滅危惧)



在来生物と外来生物

在来生物とは、元々日本にすんでいた生きもののことです。それに対して、元々海外にすんでいたののこを、外来生物といいます。

外来生物の中には、セイタカアワダチソウやアレチウリのように一面に広がって他の植物を覆おおいに在来生物を食べてしまったりする種類しゅるいがみられ、その影響えいぎょうが心配されています。

■ 在来生物

本州から九州の、平地きゅうりょうから丘陵地あそで見られます。水田や浅い水辺みずべにすんでいます。北区ではなかなか姿すがたを見ることはありません。



ニホンアカガエル

日本全国にすんでいて、庭や公園でも見ることができます。ヤマバトという名前なでよばれることもあります。「デデッ、ポッポー」と鳴きます。



キジバト

■ 外来生物



ウシガエル

北アメリカにすむ大型おたのカエルです。ももの肉を食用とするため、日本に持ち込まれたものが、逃げ出して数が増えています。



ドバト

アフリカ北部から中央アジアにすむ、カワラバトから作りだされた品種ひんしゅです。日本には奈良時代ならに持ち込まれたといわれています。

あたた

暖かくなって広がってきた生きもの

地球温暖化ということばを聞いたことがあると思います。二酸化炭素にさんかたんそをはじめとする温室効果ガスおんしつこうかが増えたことによって、地球上ちきゅうじょうの各地の気温が上がっています。またコンクリートとアスファルトに覆われた都市部としぶでは、熱が溜まりやすいヒートアイランド現象げんしょうもみられます。このような気温の上昇じょうじょうによって、元々、より南の暖かい地方あたたにすんでいた生きものが、分布ぶんぷを北へ広げてきたといわれています。

分布を広げている代表的な種類てきが、チョウの仲間のツマグロヒョウモンです。北区では10年以上前はほとんど見られませんでした。今では最もよく目にするチョウもつととなっています。このほかチョウの仲間のナガサキアゲハやムラサキツバメ、カメムシの仲間のヨコズナサシガメさいきんも、最近北区で見られるようになった、暖かい地方の昆虫こんちゅうです。

いたのに人の手によって日本に持ち込まれた生きもの
 ってしまったり、ブラックバスやウシガエルのように

北区・自然はかせクイズ ⑤

セイヨウタンポポは、身近な場所でよく見ることのできる代表的な外来生物です。在来生物であるカントウタンポポとは、花で見分けることができます。それではどこにちがいがあるでしょうか？左の写真をよく見て、ちがいを探してみましょう

答.



かんとう
 関東地方で見ることのできる、在来種のタンポポです。北区では荒川の土手などで、春に黄色の花を咲かせています。



カントウタンポポ



セイヨウタンポポ

ヨーロッパ原産のタンポポで、市街地で見ることができます。春だけでなく、ほぼ1年中花を咲かせています。



ツマグロヒョウモン (左:オス、右:メス)

かつては静岡県より西に分布していましたが、今では関東地方でも、花壇の花などで蜜を吸っているところをよく見ます。

幼虫はスミレの仲間の葉を食べ、栽培されているビオラの葉もよく食べます。

東南アジア原産で、荷物にまぎれて九州に持ち込まれましたが、次第に分布を広げてきました。

サクランボなどの幹に集まり、昆虫の体液を吸います。口が針のようになっていて、手でさわると刺されることがあります。



ヨコヅナサシガメ (左:成虫、右:幼虫)

北区の歴史と生きもの

北区には古くから多くの人々が暮らしています。その長い歴史の中で人々は生きものを食その関わりをふりかえてみると、現在も続いているものが数多くあります。

浮間のサクラソウ

かつて荒川沿いにはサクラソウの自生地が多くあり、花を楽しむ行楽の場となっていました。また江戸時代にはサクラソウの栽培が流行し、自生している種類から、さまざまな品種が作りだされました。

荒川の自生のサクラソウはその後しだいに姿を消し、今では埼玉県の田島ヶ原に残るのみです。しかしサクラソウの品種の栽培は、地元の愛好家によって続けられてきました。浮間公園にある圃場では、「浮間ヶ原桜草保存会」のみなさんの手によって栽培・管理が行われており、毎年4月に行われるさくら草祭りでは、可憐な花を楽しむことができます。



王子のキツネと装束榎

タヌキとキツネは、かつては身近な動物で、日本人に親しまれてきました。タヌキは今でも区内の荒川河川敷などで見ることができますが、キツネは姿を消してしまっただけです。

キツネといえば、稲荷神社のお使いとして有名です。岸町1丁目にある、王子稲荷神社は、東国の稲荷神社の頭領とされてきました。毎年大みそかに、東国中の稲荷神社から、使いのキツネが王子稲荷神社に参詣するのですが、その前に大きなエノキの下に集まって衣装を改めるといふ言い伝えがあります。このエノキは『装束榎』と呼ばれていました。装束榎があった場所には、装束稲荷神社が設けられました。今の神社はその後移設されたもので、あらたに植えられたエノキが育っています。また平成5年(1993年)から、この言い伝えにもとづいた「狐の行列」が始められています。



べたり、^{かんしょう}観賞したり、また^{しんこう}信仰の^{たいしやう}対象にしたりしながら、さまざまな^{かか}関わりをもってきました。

あすか やま 飛鳥山のサクラ

飛鳥山公園は明治6年（1876年）、日本で最初に指定された公園です。しかしそのずっと前から、サクラの名所として親しまれてきた歴史があります。飛鳥山のサクラは今からおよそ290年前の享保5年（1720年）に、徳川吉宗が、民衆に行楽の場を与えるために、1,270本のサクラを植えたのが始まりといわれています。

現在最も親しまれているサクラはソメイヨシノですが、これは江戸時代の終わりに頃、染井村（今の豊島区）で作りだされた品種です。今でも飛鳥山公園には、サクラの花の時期に多くの人々が訪れます。ソメイヨシノだけでなく、どんな品種が植えられているか、探してみましよう。



ソメイヨシノ



ウコン



オカメ

たきの かわ 滝野川ゴボウ

江戸時代の北区は、大消費地江戸に近い野菜生産地でした。滝野川は、野菜の種子の生産と販売でも有名な場所で、特にゴボウは滝野川の名産品として知られていました。

滝野川ゴボウは根の長さが1mを超える品種です。畑のほとんどなくなった北区では作られなくなってしまいましたが、現在では伝統野菜の復活を目的に、地域ボランティアの方々の手によって栽培されています。また、滝野川西地区の小中学校でも、児童・生徒の手によって栽培が行われ、収穫したゴボウを給食で試食しています。



谷端小学校でのゴボウの収穫



滝野川第二小学校での
ゴボウの収穫

北区・自然はかせクイズ ⑥

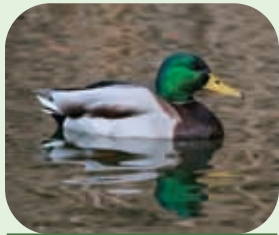
ゴボウと並んで、かつて滝野川の名産品として知られていた野菜は何でしょうか？ 答。

生きものとのふれあい 1

身近な生きものを守り、親しんでいこう

北区の中でも生きものを守るため、また生きもの^{かんきょう}のすむ環境をつくりだすために、さまざま施設^{しせつ}もあります。生きものについてもっと知りたいとき、生きものにふれあいたいとき、こ

生きものとのふれあえる場所



マガモ



アオモンイトトンボ



スジエビ



クロアゲハ



ノイバラ



■ 北区・子どもの水辺^{みずべ}

北区・子どもの水辺は、2005年に開園した緑地です。荒川の水を取り込んだ池を中心とした自然再生の場で、さまざまな水辺の生きものが生活できる環境が整備されています。ここは、子どもたちが安全に、水辺の自然と親しむことのできるスペースです。地元の方々が清掃作業や調査活動、観察会の運営を行っています。



まな取り組みが行われています。そして、生きものに関する展示や観察会が行われている施設を利用してみましょう。

自然ふれあい情報館

清水坂公園にある自然ふれあい情報館では、区内で見られる生きものに関するパネルの展示やビデオの上映を行っています。また魚類や小動物が飼われていて、間近に見ることができます。情報館の奥には自然観察園が設けられ、さまざまな鳥類やトンボが生息しています。観察会も行われています。

情報館には専門の係員がいるので、生きものや自然に関する質問もすることができます。ぜひ訪ねてみましょう。



荒川知水資料館 (amoa)

旧岩淵水門（赤水門）の近くにある荒川知水資料館（amoa）は、1998年に開館した荒川の情報発信施設です。館内では荒川の自然と歴史に関するさまざまな展示が行われていて、鳥類のカービング（模型）や昆虫の標本も見ることができます。大きな水槽では、北区内の魚類が観察できます。また資料館脇にある水生植物観察池では荒川に生育する植物が栽培されています。希少な水生植物も見ることができます。新岩淵水門（青水門）の先にある野草園では、植物だけでなく野鳥やカエル類などの小動物の姿を見ることがもできます。



北区・自然はかせクイズ ①

自然ふれあい情報館のある清水坂公園は、1994年に開園しました。公園になる前は、どのような場所だったのでしょうか？ 答。 _____

生きものとのふれあい 2

生きものを守るために、学校での取り組み

■ 学校プールとヤゴ

トンボ類の幼虫はヤゴと呼ばれ、水中にすんでいます。水の深さや水中の植物の種類など、環境のちがいによって、すんでいる種がかわります。

秋になって学校の水泳の授業が終わった後、ギンヤンマやアキアカネがプールに卵を産み、ヤゴが育っています。しかし翌年夏のプール開きの前に行われる清掃によって、ヤゴが排水と共に流されてしまいます。

近年各地の小中学校で、プール開きの前にヤゴを助け出す活動が行われるようになりました。区内の小学校でも地域の市民団体の協力をいただき、児童と一緒にプールのヤゴを助け出して水槽で育てたり、公園の池に放したりしています。



ギンヤンマのヤゴ



アキアカネのヤゴ



桐ヶ丘郷小学校・ヤゴ救出大作戦

■ 学校ビオトープの取り組み

ビオトープとは、生きものがくらす場所という意味のドイツ語です。北区では区内の小学校の校庭にあらたにビオトープを作り、生きものをよぶ取り組みを始めました。ビオトープによぶ生きものは外来生物ではなく、元々北区にいらしていた在来生物です（12ページを見てください）。ビオトープを作るにあたっては児童のみなさんと一緒に、どのような環境をつくらよいかを考えました。そして一緒に整備を進めました。こうしてできた学校ビオトープにはさまざまな生きものが集まり、自然とのふれあいの場となっています。



荒川小学校ビオトープ



滝野川第三小学校ビオトープ



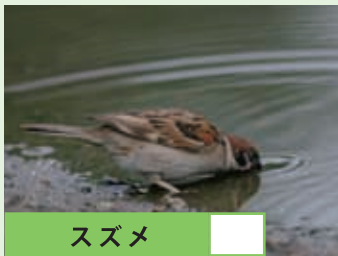
浮間小学校ビオトープ

生きものが集まるビオトープを作ってみよう

生きものをよぶために、いろいろな環境をつくってみましょう。

池を作ろう！

池を作ると、さまざまな生きものが集まります。トンボの仲間が卵を産んで幼虫が育ったり、アズマヒキガエルが春先に卵を産んだりします。鳥もやってきて、水を飲んだり水浴びをしたりします。



スズメ



クロスジギンヤンマ



生きものの好きな木を植えよう！

実のなる木には小鳥たちがやってきます。樹液（木の幹から出る汁）に集まる昆虫もたくさんきます。また、ナミアゲハの幼虫が食べるミカンの葉のように、昆虫の幼虫が葉を食べる木を植えると、成虫が卵を産みにやってきます。



ナミアゲハ（幼虫）



サトキマダラヒカゲ



かくれ場所をつくろう！

石を積んだり枯れ枝を組んだりしておくと、トカゲの仲間や昆虫が身をかくす場所になります。



ニホントカゲ



北区・自然はかせクイズ ⑧

ヤゴ（トンボの幼虫）は、学校のプールやビオトープの池などで見ることができます。ヤゴは水中で、何を食べているのでしょうか？ 答。

学校の生きものを探してみよう さが

学校にもいろんな生きものがいます

学校の花壇や植え込みには、小さな生きものがすんでいます。近くに川が流れていたり、見られる種類が変わります。身近な生きものに目を向けてみましょう。そこには驚きがいぜひともその小さな変化に気がつくようになりたいですね。

学校で見つけた生きものの絵をかいてみよう。そしてこの本

花壇の花に集まっている昆虫を探してみよう。



グラウンドの隅々には、小さな花が咲いているよ。



校庭の木の枝や葉にも、きっと小さな昆虫がいるよ。



小鳥の声が聞こえたら、そっと姿を探してみよう。



見つけた日 _____ 年 _____ 月 _____ 日
見つけた場所 _____
生きものの名前 _____

見つけた日 _____ 年 _____ 月 _____ 日
見つけた場所 _____
生きものの名前 _____

林が^{のこ}残っていたりすると、そこからいろんな生きものがやってきます。また季節^{きせつ}によっても、つばいあります。その小さな^{へんか}変化が、大きな^{かんきょう}環境の変化につながっているかもしれません。

^{としょかん} ^{ずかん}
や図書館の図鑑を参考にして、名前を調べてみよう。

見つけた日 年 月 日
見つけた場所 _____
生きものの名前 _____

見つけた日 年 月 日
見つけた場所 _____
生きものの名前 _____

見つけた日 年 月 日
見つけた場所 _____
生きものの名前 _____



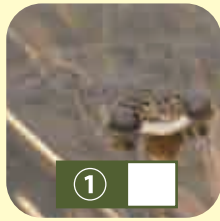
ハート

A large rectangular area with a green border, containing 20 horizontal dashed lines for handwriting practice. The lines are evenly spaced and extend across the width of the page.

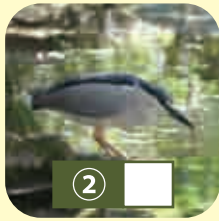
北区・自然はかせクイズの答え

- ① 太陽を見ないようにしましょう（目をひどく痛めます）。また、レンズがずれるので、地面などに落とさないように気をつけましょう。
- ② 甲武信ヶ岳です。埼玉県・山梨県・長野県の3県が接する場所にある、高さ2,475mの山です。
- ③ ウナギは海で卵を産みます。最近の研究により、産卵場所が太平洋のフィリピンからマリアナ諸島付近であることがわかってきました。
- ④ レッドデータブックといいます。日本の国全体を対象としたレッドデータリストが、環境省の手によって作られています。
- ⑤ セイヨウタンポポは花の下側にある、総苞外片という部分が反り返っているので、見分けることができます。
- ⑥ 滝野川ニンジンです。滝野川ニンジンも、根が1m以上に長く育つ品種です。
- ⑦ 国鉄（現在のJR）職員の住宅が建っていました。住宅を取り壊した後、今のよ
うな緑の多い公園が整備されました。
- ⑧ イトミミズやアカムシ（ユスリカの仲間の幼虫）などの小さな生きものを食べます。

表紙の生きもの



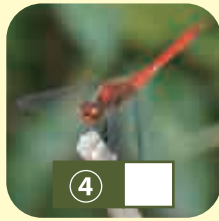
①



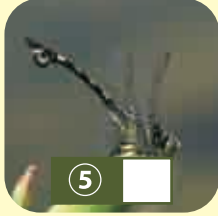
②



③



④



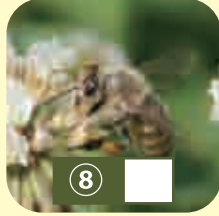
⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



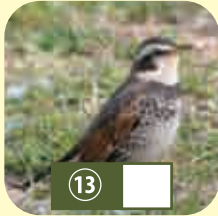
⑩



⑪



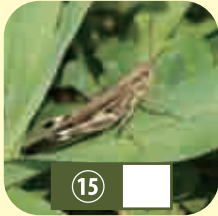
⑫



⑬



⑭



⑮



⑯

- ① トウキョウダルマガエル
⑤ ウチワヤンマ
⑨ カントウタンポポ
⑬ ツグミ

- ② ゴイサギ
⑥ ガガイモ
⑩ ニホントカゲ
⑭ ムラサキケマン

- ③ エゴノキ
⑦ ナガコガネグモ
⑪ タチツボスミレ
⑮ マダラバッタ

- ④ ナツアカネ
⑧ ニホンミツバチ
⑫ アオスジアゲハ
⑯ オオカマキリ

北区の生きもの

～私たちの住む北区で見られる、さまざまな生き物～

平成24年3月発行

刊行物登録番号
23-1-118

発行 東京都北区生活環境部環境課
〒114-8508
東京都北区王子本町1-15-22
TEL 03(3908)8618
編集 株式会社 緑生研究所



City of Kita

小学校

年 組 名前